

関西城郭研究会創立50周年記念 機関紙『城』記念特集号

明治5年陸軍省城絵図の発見と検証

—陸軍省築造局城郭存廃調査城絵図—

平成23年4月29日校了

しろはく 古地図と城の博物館 富原文庫

代表 富原道晴

第1部 平成23年4月30日稿了

- 1) 始めに
- 2) 残存陸軍省城絵図125点調査記録
- 3) 陸軍省城絵図群の特長
- 4) 陸軍省城絵図の時代背景
- 5) 陸軍省城絵図作成の経過
- 6) 陸軍省城絵図作成規定
- 7) 陸軍省城絵図のまとめ
- 8) 今後の予定について

第2部 平成23年6月30日追加稿了

- 1) 調査により伝来が判明した追加20城の陸軍省城絵図
- 2) 各府県における陸軍省城絵図控図、下図の調査
- 3) 陸軍省絵図から見た変貌した城地の検証 丹波亀岡城跡
- 4) 各府県における絵図作成への対応記録 京都府

第3部 富原文庫陸軍省城絵図所蔵目録

1) 始めに

城絵図発見から50日ほどの短期間であるが、調査経過に順じ、暫定報告をしたい。平成23年(2011年)2月11日、明治期作成による城郭名未記載の城郭絵図20点について、作図目的、城郭名を分析調査の結果、これらの絵図は、国家レベルの意志の元に、廃藩置県後、各県が作成した官制絵図であると判断、明治政府による、明治5年(1872年)陸軍省築造局による、城郭存廃調査に基づくものであると確信した。急遽、3月5日残余の105点を確認したところ、明治5年2月28日発足の陸軍省築造局の捺印を発見、さらに、明治5年5月作成年月記入絵図多数、又、当初200点程の全国規模であること、その出自がフランスである事まで判明した。その結果、これらの絵図は正保城絵図を超えるスケール、明治初期作成という内容から明治政府による、国家規模で実施された。明治6年の城郭存廃決定に至る明治5年調査図と判断した。(以下、陸軍省城絵図とする。)

国家規模の城郭の一斉調査にかかわる絵図の存在は、今日まで正保城絵図以外には、その残存を全く知られていない。防衛省防衛研究所の陸軍省大日記もその記録を欠いている。陸軍省城絵図は。関

東大震災や東京大空襲といった度重なる首都災禍により、軍機関本部の焼失とともに、その存在が忘れられた幻の絵図群である。詳細な絵図には4 m近くになる巨大なものもあり、緊急時、短期間という事情により、正保城絵図のように絵師による清書を見たものは少ないが、城郭の存廃決定に至る、つまり、城郭の存続と破壊を決定する根拠となる内容的に極めて重要かつ詳細な絵図といえる。筆者はこれまで、①明治初期測量史の研究、三春県絵図方絵図の検証（注1）を行ったが、今回の絵図に成果の一部が収録されていた。②明治から戦前にいたる城跡の急激な破壊を記録研究するために。日本全国の城郭所在都市地図明治から戦前まで数千点を集積、公開してきた。（注2）③城郭研究の原点として、明治陸軍の城郭研究史調査を行い、公開してきた。（注3）陸軍省城絵図はこれらの筆者の研究においても原点に位置するもの（注4）である。

明治政府による軍制改革、急激な軍事技術の革新による価値観の変貌の中で、陸軍省城絵図は明治政府が旧幕府の城郭をどう評価していたか、今日まで、どのように変貌を遂げたのか、変貌前を物語る貴重な資料である。絵図発見から50日、残存125点の絵図のリストアップと概略の検証を終了した。作成後139年を経過して

始めて発見された絵図群について、全体像を明らかにしたい。

尚、この記録は調査経緯に順じて、記入しており、其のじきじきのまとめを記入している。調査の進行と共に、結論が進化、変化していくことはご理解いただきたい。

注1) 明治4年三春県絵図方測量記録 116町村600余の野帳・絵図
富原道晴 2004年 古地図研究第312号しろはく双書16三
春古城絵図・三春県絵図方測量村絵図

注2) しろはく双書第5号和歌山市街図と和歌山城跡の変遷・第6号甲府城
資料・第9号釜山倭城と町並み古地図に見る景観・第20号仙台城跡
図集明治大正・第21号同昭和・第22号若林古城跡に迫る

注3) 国難の時代幕末 軍事史から見た砲術と城郭
附・明治以降陸軍城郭研究編年史 富原道晴
関西城郭研究会機関紙城193号2009年1月

注5) しろはく古地図と城の博物館富原文庫は、平成12年5月15日設
立された城郭研究機関、中世・織豊期城郭絵図と近世城郭幕用図、
藩用図、兵法城絵図の発見、明治以降城郭遺跡の変遷解明地図の検
証を目的とし、14万点の古絵図、古典籍、絵葉書、城郭文献を収
蔵している。池波正太郎真田太平記館開館記念「戦国時代の城と合
戦絵図展」富原文庫群馬開館記念「上野動乱絵図に見るの戦国城館
展」を開催。江戸東京博物館、板橋区立郷土資料館、日本銃砲史学
会、日本古地図学会等に資料の提供や展示貸出、講演を行っている。

2) 残存陸軍省城絵図125点調査記録

残存125点の城絵図について、目録作成と検証を行った。その
結果、城郭名未記載のものが25図あり、縄張等から検証、判明し
た城郭数は82城、5城は不明、計87城に対し、1城で複数描か
れた物もあり、119図となり、関連絵図6図で総計125図とな
った。これらの絵図について、描画内容、描画精度、描画面積、描

画枚数、地域分布、記入された特長を整理したい。

い) **内容別** 城郭図 8 2 図 御殿図 9 図 天守図 1 城 3 図

要害図 4 図 陣屋図 8 図 古城図 8 図

砲台図 3 図 城下町図 2 図 古戦場図 1 図

施設図 3 図 地域図 2 図

城郭・陣屋・古城・要害・砲台がほとんどで 1 0 5 図

御殿・天守等建築で 1 2 図、その他 8 図となる。

ろ) **描画精度** 細密図 2 0 図 精図 6 5 図 粗図 3 6 図

国家事業でありながら、粗図が存在するのは緊急性と

いう製作時間制約、細密図・精図で 8 5 図を数えるの

は絵図群の性格を表している。

は) **絵図面積** 巨大図 1 辺 2 m 以上 8 城 9 図

米沢城 1 7 0 x 2 7 2 c m ・ 牡鹿半島横断測量図 3 1 x 2

4 7 c m ・ 小諸城 2 図 2 5 0 x 4 2 4 c m ・ 亀岡城 2 1 7

x 3 5 0 c m ・ 柏原城 1 2 0 x 2 0 8 c m ・ 久留米城 3 4

6 x 2 5 6 c m ・ 岡城 2 8 x 4 0 5 c m ・ 佐伯城 8 1 x 2

3 7 c m

大図 1 m 以上 4 0 図 (目録参照)

中図 50 cm 以上 60 図 (目録参照)

小図 50 cm 以下 15 図 (目録参照)

に) **地域別分布** (城郭、陣屋、古城、要害、砲台、城内建築図

等すべて城とした。城名は目録参照)

東北地区 羽後 5 城 6 図 羽前 3 城 5 図 陸前 4 城 5 図 1 地域 1
図 (牡鹿半島横断測量図) 陸中 3 城 3 図 磐城 7 城 8
図 1 地域 (田村郡実測図) 1 図 計 22 城 27 図 2 地
域 2 図

関東地区 常陸 2 城 2 図 1 施設 (笠間文武館絵図) 上総 3 城
3 図 計 5 城 5 図 1 施設 1 図

甲信越地区 信濃 6 城 9 図 計 6 城 9 図

北陸地区 越前 4 城 7 図 若狭 1 城 1 図 計 5 城 8 図

東海地区 駿河 1 城 2 図 遠江 3 城 5 図 三河 5 城 7 図
美濃 6 城 10 図 尾張 1 城 1 図 計 16 城 25 図

近畿地区 伊勢 5 城 7 図 志摩 2 城 2 図 伊賀 1 城 1 図
近江 1 城 1 図 大和 1 城 1 図 摂津 1 城 1 図
紀伊 1 城 2 図 丹波 5 城 10 図 丹後 4 城 6 図
但馬 1 城 1 図 淡路 1 城 1 図 計 23 城 33 図

中国地区 残存せず

四国地区 残存せず

九州地区 筑後 1 城 1 図 1 古戦場（高良山古戦場） 1 図

豊前 1 城 2 図 豊後 3 城 3 図 薩摩 1 施設 2 図（砲術館） 計 5 城 6 図 1 古戦場 1 施設 2 図

城名不明 砲台図 1、御殿図 2、陣屋図 2、城郭図 1 図

計 6 城 6 図

総計 8 8 城 1 1 9 図その他 6 図計 1 2 5 図

以上、関東、中国、四国に就いて、欠落が多い。全体については、散逸絵図の発見と解明が必要とされる。

ほ) 個別絵図の枚数

今回の絵図は統一された仕様に基づく所産であるが、受ける側の各県の受け取り方に差があり、残存度が問題としても、絵図の内容と別に提出枚数にも差が出ている。

米沢城 3 図、勝山城 3 図、岡崎城 3 図、園部城 3 図、亀岡城 4 図、その他は 2 図—1 図となっている。とりわけ、城跡の現状が改変されている亀岡城の解明が急がれる。

3) 陸軍省城絵図群の特長

今回の絵図の特長を整理しておきたい。

い) 当初200点に及ぶ、全国規模の国勢調査であり、個別調査は県が実施している官制絵図である。調査の指示は陸軍省築造局派遣将校が全国で行っている。

ろ) 調査の目的が城郭の軍事機能である土木工事の仕様に加えて、城域の坪数や、残存建築の居住性、坪数等、軍営地としての適性に重点が置かれている。旧城郭の軍事機能が最早、時代に取り残され、城跡の利用目的を主体としている。

は) 残存建築の平面図、間取り図、屋根葺図等の記入が詳細であり、その利用目的は居住性であり、兵営としての利用と思われる。活用整理のための付番が付されている建築が多数ある。焼失した場合は戊辰兵火等原因を記入している。

に) ほとんどの絵図が県庁所在地や元知事住居を明記し、行政機能について、明確にし、利用状況を確認している。制作年代は廃藩置県以降である。(明治4年7月14日廃藩置県の詔勅)

ほ) 城郭というより、その機能を終えた城跡と理解され、江戸詰藩士帰藩のための開墾状況、城の破壊が記録されている。藩政の記録があり、作成者は県行政当局である。

へ) 制作年時は明治5年と明記したものがあり、ほとんどが同年代と推定される。陸軍省築造局の印がある絵図があり、陸軍省発足の明治5年2月28日以降が絵図群がまとめられた上限となる。絵図群着手は3月18日(後述)。個別絵図の完成は古図に現状記入したものもあり、明治5年の現状記入年を作成年としても下限は提出(後述)の8月となる。

と) 薄葉紙にかかれたものが多く、既存の絵図を元図として、短期間で制作されたものが多い。

ち) 描画精度はまちまちであるが、絵師による清書まで行った絵図は比較的少ない。

り) 城郭図以外に、地域により、要害、砲台、軍事上の要地、古城、軍事施設、古戦場図まで含まれ、地域によって作成範囲がバラバラで指示の不明確さ、緊急性を読み取れる。福知山城のように天守各階平面図を残している城もある。

ぬ) 城内の軍事施設、練兵場、鉄砲打場、武器蔵、武学校、兵学寮、火薬蔵、修行兵屯所、調練場、銃練場、文武学校、遠町打場、兵隊屯所、営繕方等の記入が顕著である。

る) 絵図の作成にはフランス軍事顧問団は関与していないが、伝来

の関わりには検討の余地がある。

を) 個別城絵図の特記事項

大館城 戊辰兵火建物不残焼失、一関城 図籍掛改済印、石母

田館 第21区・村長署名黒印、宮沢要害 壬申（明治5年）

5月、守山陣屋 元松川県管轄、三春城 明治5年正月営繕

方作成 測量佐久間讃、下館城 東京住士卒帰藩邸宅地不足

本丸出丸牛年開拓、勝山城 明治2年銃練場改作、岡崎城 元

岡崎県、刈谷城 図籍掛改済印、挙母城 本丸元挙母県城郭、

田原城 元田原県、今尾城 元今尾県内外郭之図、

加納城 元加納県城跡略図・藩士帰農の地に割譲、

郡上城 元郡上県城郭絵図・開墾地、苗木城 元苗木県城跡略

図、鳥羽城 志摩国元鳥羽県、高槻城 袋に陸軍省築造局印・

高槻県、亀岡城 丹波国亀岡県、柏原城 元柏原県庁総図、福

知山城 （天守指図）明治5年4月能勢市次郎作、舞鶴砲台

壬申（明治5年）5月豊岡県支庁舞鶴局印、松帆台場 文久

3年出来岩屋浦松尾砲台

4) 陸軍省城絵図の時代背景

明治の軍制改革に伴う、国民皆兵、徴兵制度の施行の中で、軍営

整備を目的として、旧幕府城郭調査は実施され、今回の城絵図が残された。激変する時代の流れの中で、正確にその作成目的を調査したい。又、絵図が当初フランスで発見されたため、フランス軍事顧問団との関わりを重点的に篠原宏氏の『陸軍創設史、フランス軍事顧問団の影』等明治初期陸軍資料（注１）をベースに、軍制改革にかかわる緊迫した事項を編年整理した。

慶応３年（１８６７）１０月１５日朝廷、大政奉還を承認、２４日徳川慶喜将軍職辞表。１２月９日明治政府三職設置。

慶応４年１月３日鳥羽伏見の戦い。仁和寺宮軍事総裁に。１３日太政官設置、２月３日三職八局制度、軍防局発足。４月１１日江戸城接收。５月２４日徳川家達駿河７０万石転封。７月１７日江戸を東京に改称。９月８日明治改元。

明治２年５月１８日五稜郭降伏、戊辰戦争終結。６月２１日—２５日兵制会議薩長土三藩兵力東下。７月８日官制改革、軍防局は兵部省に。１１月１８日海陸軍建設要項上申。内容兵部省役所、兵学寮、陸軍屯所建設他。１１月２４日兵部省前途之大綱上申。内容陸軍は仏式。

明治３年１月４日陸軍兵学寮大阪開業。３月１４日太政官朝議陸

軍フランス式内定。4月新政府第2次フランス軍事顧問団派遣要請。

6月27日普仏戦争開始。9月2日ナポレオン3世ドイツ軍に降伏。

10月2日太政官陸軍はフランス式、海軍はイギリス式に決定布告。

10月19日陸軍兵学令。11月13日国民徴兵規則発。11月2

0日兵学寮は各藩に生徒要求。フランス陸軍兵術書研究、翻訳。

明治4年1月12日普仏戦争講和。2月22日朝議三藩親兵設置。

4月20日東山鎮台本営石巻、西海鎮台本営小倉設置。7月兵部省

職員令、陸軍組織決定、陸軍築造局、陸軍兵部寮、参謀局、5管鎮

台。7月14日廃藩置県の詔勅。11月府県統廃合により3府30

2県は3府72県となった。12月兵学寮の東京移転決定、12月

24日山県軍備意見書。常備兵、予備兵設置、内乱鎮圧から外向き

の軍備へ、仮想敵国想定、男子皆兵徴兵制発足、沿海防備海岸砲台

整備、戦艦建造、(絵図には元亀岡県等、旧302県を旧と表現し、

絵図完成時が72県統合後である事を実証している。)

明治5年2月28日兵部省は陸軍省、海軍省に分離。3月10日

兵学寮東京移転。(3月18日から城郭存廃調査は実施され、8月報

告された(後述)。) 4月12日第2次フランス軍事顧問団来日。1

1月9日徴兵令公布。11月12日岩倉欧米使節団出発、軍制調査

研究。(明治6年6月24日使節団帰国) 11月28日全国徴兵の詔が発。12月2日太陰暦は太陽暦に

12月3日は明治6年1月1日に。1月9日全国鎮台配置改定。
6鎮台、陸軍歩兵十四連隊、騎兵三大隊、砲兵18小隊、工兵10
小隊、軽重兵6隊、海岸砲兵9隊、平時人員31680人、戦時人
員46350人。 8月13日教導団兵学寮から陸軍省直轄、8月20日戸山学校発足、8月25日フランス軍事顧問団要塞建設意見書。
以降、10数年海岸巡視調査。 10月10日兵学寮に仮士官学校設置、

7年1月士官養成、防禦線画定、

明治8年1月15日フランス軍事顧問団南部海岸防禦法案上申。
7月17日意見書、砲台建築の原則、砲台の種類、砲の口径、砲の
間隔、特殊な防禦法、10月4日陸軍全土要塞化意見上申。

明治9年1月要塞建設開始。

明治10年3月西南戦争

明治11年12月5日参謀本部陸軍省から独立。

明治13年5月フランス軍事顧問団すべて帰国。

明治18年3月18日ドイツメッケル少佐来日、この後、陸軍は

兵制をフランス式からドイツ式に変更。

陸軍省城絵図作成は次項に見るように、明治5年3月15日の通達によるものであり、第2次フランス軍事顧問団の来日は4月12日であって、絵図作成そのものにフランス軍事顧問団のかかわりはない。しかし、陸軍省の防衛計画に深くかかわったフランス軍事顧問団(注2)の関係者が、これらの絵図がその城郭存廃の用途を終了したのち、無用のものとして、入手し持ち帰った可能性は十分考えられる。陸軍省城絵図は正保城絵図のように、絵図の保存と今後の活用を目的としていない。行政資料として、城郭の存廃が決定され、用済みとなった絵図がフランスに渡ったことは、その経緯が不明としても、フランスに絵図が残存した理由かもしれない。

絵図は予想された通り、明治政府による国民皆兵という軍制改革の中で、その拠点造り、鎮台の整備という過程で実施された。旧幕府城郭の現状調査記録であった。明治以降の激しい変動の中で、明治5年という定点で全国規模で城郭遺跡の状態を知ることができる、陸軍省城絵図の出現は城郭研究史上、重大な意義があるといえる。

注1 陸軍創設史 篠原宏 1983年・幕末維新三百藩総覧昭和52年・明治期国土防衛史平成14年・陸軍歴史明治22年・図説陸軍史平成3年・軍事学入門1999年

注2 明治8年フランス軍事顧問団報告書陸軍士官学校職員一覧表

一般訓練 フランス人教官地形学・築城学クレートマン中尉

明治11年士官学校学科 地理図学、兵学（諸種戦闘法、攻守法）、永久築城学（攻城砲、築城史）、地理学（仮築城図取）

5) 陸軍省城絵図作成の経過

森山英一氏は法令全書や太政官日誌、法規分類大全等の記録を探り、「明治維新以降における旧城郭の変遷」という論文をまとめられ、1970年『名城と維新』を発表された。陸軍省側から見た同書による記録と、実行部隊である県行政資料からの記録により、陸軍省築造局の城郭調査を解明したい。

明治4年2月22日兵部省に御親兵設置（5年3月9日近衛兵と改称） 4月23日東山道鎮台分営石巻・福島・盛岡 西海道鎮台分営小倉・博多・日田に設置 明治2—4年の廃藩 吉井・狭山・盛岡・長岡・多度津・丸亀・竜岡・大溝・津和野 本藩併合廃藩鞠山・福本・高須・徳山（明治5年3月15日以前の軍営地、廃藩地は調査対象から除外されたか、絵図が残存しない）

明治4年7月14日廃藩置県詔勅261県 従来の府県とあわせ

3府302県、11月統廃合により3府72県

7月28日兵部省陸軍部内条例 陸軍築造局設置 所掌業務「築

造兵並びに城堡建築等ノ事ヲ管理ス」 8月20日兵部省に地方城

郭の管轄許可（兵部省伺 地方城郭ノ儀 兵部省管轄被仰付候事

但県ニ於テ明細ノ図面相調早々兵部省へ可差出事 (法規分類大全

第1編兵制門1・太政類典第2編214巻兵制鎮台及諸庁制置4旧

城郭の管理について) 太政官達 地方城郭ノ儀兵部省管轄被仰付

候事 但県ニ於テ明細ノ図面相調早々兵部省へ可差出事(太政官日

誌明治4年附纂上巻・法令全書・太政類典第2編214巻兵制鎮台

及諸庁制置4旧城郭の管理について) (この明治4年8月20日の

調査は今回の残存陸軍省城絵図に含まれていない。)

東山・西海鎮台廃止 4鎮台8分営設置 東京鎮台兵部省分営新潟(11月)新発田城に移転・上田城・名古屋城(明治5年8月水戸城) 大阪鎮台大阪城分営小浜城(12月)彦根城に移転・高松城 後伊予松山城 鎮西鎮台小倉・熊本城分営広島城・鹿児島城 東北鎮台石巻・仙台城分営青森 城郭の兵部省引渡 4年10月松本城・12月9日上田城・5年1月17日静岡城・1月29日松代城・2月9日高遠城・10日飯田城・2月彦根城・5月25日名古屋城・27日岩鼻・伊勢崎・七日市・小幡陣屋

明治4年12月東京鎮台本営管下9ヶ国の城郭について、兵部省出仕、木村信郷、徳久恒範を巡回させている。(修史余談・森山120P) 今回の現存陸軍省城絵図に関東地区が少ないのは、この明治

4年12月調査の成果が含まれていないものと考えられる。従って、フランスに持ち帰られた時点でこれらの絵図は含まれなかったかと考えられる。森山氏はこの調査について築造局から存廃の意見書が出されているとして、忍、川越、岩槻、高崎、館林、前橋、宇都宮、黒羽、大田原、烏山、水戸、下館、土浦、笠間、古河、関宿、結城、佐倉、大多喜、小田原、甲府、沼津、府中、田中を紹介している。これらはほとんど今回の残存陸軍省城絵図に含まれていない。

明治5年2月27日兵部省廃止、陸軍省、海軍省設置 城郭は陸軍省管轄 明治5年3月18日築造局から武官等を派遣して城郭、兵器等の実地調査に当たらしめる。同日太政官布告。「今般城郭兵器取調之為メ陸軍省官員各地へ出張、(略)各府県ニ於テ此旨相心得、」(法令全書・京都府庁文書) 明治5年3月18日陸軍省達、「今般城郭兵器等為取調、当省官員各府県へ派出巡廻為致候(略)別紙 1、城郭、堡砦、練兵場等総而兵事ニ関涉シ建築する者ハ土地並厦屋、樹木共悉皆当省管轄ニ候条詳細取調可申出事。但城郭之儀ニ付テハ追々届出候向キモ尚又今般明細可申出候事(後略)」(京都府庁文書・城郭巡視日記・修史余談) 森山氏は築造局から出張した官員を大迫少佐、遠藤、葛岡両大尉、岩崎、勝田、谷田、児玉の4中尉、仲、

石黒の2少尉ら合計13人とし、5方面に派遣されたとしている。

京都府は布令書第97号において、4月本件を布告し、遠藤陸軍大尉による取調巡視中の日記草稿として明治5年城郭巡視日記を残している。

6) 陸軍省城絵図作成規定

城絵図作成に際し、担当将校への具体的な調査指示、陸軍省からの各県への通達を記録したい。

明治5年3月15日陸軍省達・巡検参謀将校職務大略（法令全書・

森山）

1、各地城塞ノ方並地勢ノ陰易ヲ見極メ、攻守ノ便、不便ヲ計リ、

暇アラバ絵図ニ認メ可申事

1、城中用水ノ多小、家屋ノ有無、平場ノ広狭並濠地ノ模様、游泥

乾湿等明細書載セ可申事

1、城塞四辺ノ地理、水運ノ有無、山丘森林ノ向背等書載可申事

1、其城下市街人烟ノ多寡、馬匹ノ多寡、物品運輸製造等ノ項ヨリ

貧陋繁富ノ別、別シテ其地人民ノ重ナル産業ハ何物ナルヤヲ記シ可申事

1、其城市ヨリ国境マテ又他ノ国境相通スル道路大小間道共ニ大

凡里程聞繕ヒ記シ可申事

- 1、 県官ト引合ヒノ節、何レヨリ何レマテ城属ノ地ナリヤ悉シク書
キ記シ、図面ニテ取究メ置可申事

- 1、 総テ後來万一一揆ナト起ルトキハ味方ニ城ヲ取ルトモ敵ニ城ヲ
取ラレタリトモ、其攻守ノ方法等予め存意丈ニテモ記置可申書

3月18日山県陸軍大輔名で京都府への通知

陸軍省達、「今般城郭兵器等為取調、当省官員各府県へ派出巡廻為

致候ニ付而者、別紙之件々詳細取調、出張官員へ可申出候事

- 1、 城郭堡砦練兵場等、総而兵事ニ関係シ建築スル者者、土地並厦
屋樹木共悉皆当省管轄ニ候条、詳細取調可申出事。但城郭之儀
ニ付テハ、追々届出候向キモ、尚又今般明細可申出候事

以下、兵器弾薬並びに製造所、民政のため建築したものを除く各地方
県庁、武事に関する学校に着いて調査を指示している。

8月24日に陸軍省は省内の各局に調査結果に基づく城郭の存続、
廃止案を示し意見を求めている。（森山127P・法規分類大全）従
って、調査は明治5年3月18日から実施され、8月には終了して
いた。

7) 陸軍省城絵図のまとめ

い) 明治5年3月18日から、5ヶ月という短期間で陸軍省築造局が指示し、全国の75府県が調査した官制絵図である。調査開始時、すでに軍営であったものは対象からはずされている。先行した明治4年8月の兵部省調査が一部紛れている可能性があるが、12月の関東地区の調査成果は散逸している。中四国の絵図が発見できない理由は不明であるが、今回の絵図群にはフランス発見当初から散逸していた。又、維新期に成立した藩の内、尾州、紀州の家老で慶応4年諸侯に列せられた今尾、犬山、紀伊田辺が収録されている。さらに、慶応4年駿府藩の成立で廃藩となった内、浜松、掛川、沼津、横須賀、及び、立藩された内、松尾藩が収録されている。絵図の残存度が不明であるため、調査当初の絵図数については確認できない。

ろ) 絵図作成は明治5年3月18日、75府県に下命され、旧305府県の行政組織を実行部隊として、全国規模で実施され、8月完成という短期間に完成した、軍制改革や産業革命という劇変に見舞われる以前の幕末に近い、明治初期城郭を知る基礎絵図である。

は) オリジナルの通しナンバーが99まであり、陸軍省収蔵後記入され、陸軍省築造局印が捺印された、陸軍省所蔵図である。東京にあれば、関東大震災、東京大空襲に見舞われ、おそらく、残存しな

い幻の絵図といえる。

8) 今後の予定について

い) 日本国内で散逸したフランス残存残余の絵図 80 点の調査。

ろ) 巡検職務大略と個別絵図の内容検証

は) 城郭の変遷を陸軍省城絵図、明治 11 年府県庁所在地細密銅版

アトラス、数千枚の明治、大正、昭和戦前の市街地地図により、
検証したい。

に) 明治 5 年調査実行者である 75 府県作成、国内残存城絵図下絵、

控図の調査。絵図の作成が明確になった以上、今後、行政資料
として府県文書館、図書館、旧県所在地方自治体等で発見の可
能性は大きい。明治初期作成の謎の絵図があれば連絡いただけ
れば、比較検証させていただく。

ほ) 絵図公開のための特別展開催、陸軍省城絵図集の刊行を予定。

第二部 平成 23 年 6 月 30 日校了

原稿の締め切りにあわせ、4 月末日までの 50 日の調査により、
フランスで発見された膨大な城郭絵図が、明治 5 年の陸軍省実施に
よる全国城郭存廃調査による成果であると断定し、一連の絵図を正

保城絵図に対し、陸軍省城絵図と総称した。そのまとめとして、明治5年3月18日から、5ヶ月という短期間の記録であることも調査した。その全貌を明らかにする上で、気がかりであるのは、日本国内で分散した80図の行方と、各県、つまり、陸軍省依頼により、城郭調査と報告をした全国の75府県に何も残されていないのかという疑問である。たとえ残されていたとしても、これまで、陸軍省存廃調査による絵図の残存が知られていなければ、その絵図の目的が不明のまま処理されているのではないだろうか。そこで、追加調査を実施した。1点は国内で散逸した絵図の調査、2点目は全国の各県文書館等所蔵絵図の調査、3点目は絵図と現状城跡の比較検証、4点目は府県行政資料から見た絵図か作成の実態解明である。

1) 調査により伝来が判明した追加20城の陸軍省城絵図

フランスで発見され、陸軍省城絵図と見極めるまでの間に、目的不明のまま、明治初期城郭図として、国内で分散した絵図を関係者の協力により、絵図表面の画像のみ、確認することが出来た。撮影されていない絵図もあり、全容解明とはいかないが、富原文庫所蔵125図の内、87図が撮影され、38図が未撮影であった。未撮影は城郭名が判明しないものや、大型で広げられない絵

図が含まれている。城郭名不明の絵図は所蔵後、縄張等で調査した。富原文庫未所蔵の絵図が48図あり、絵図の内容は違うが、城郭が所蔵図と同一の絵図が12城郭、14絵図、城郭図が未所蔵のものが、20城郭、27絵図、城郭図名が画像で判別出来ないもの7絵図であった。従って、所蔵図125図、未所蔵図48図、計173図は内容が判明し、撮影前に在ったとされる200余図の内、撮影されず、かつ、未所蔵絵図は約30図になる。

絵図の寸法等、画像面以外の情報は不明ですが、富原文庫未所蔵図で未所蔵城郭の内、新に城郭名の判明した絵図は

北海造 五稜郭

東北 陸奥七戸城 八戸城2図 弘前城4図 坂本要害 角田

要害 涌谷要害 北方館 船岡館 出羽矢島陣屋

関東 上総鶴牧城

北陸 越中富山城

近畿 伊勢菰野城 和泉岸和田城 大和芝村陣屋 柳生陣屋

九州 筑後柳川城2図 豊後杵築城 日出城2図 森城2図

以上、20城が確認できた。関東がほとんど伝来せず、中四国が皆無である点は変わらない。所蔵89城郭125図とあわせ、10

9 城郭等の絵図 1 7 3 図が確認できた。

2) 各府県における陸軍省城絵図控図、下図の調査

陸軍省城絵図の作成は当時全国に 7 5 府県所在した各県行政が作成したが、前年 1 1 月の府県統廃合以前の 3 0 5 府県行政が関与した為、絵図に旧県名記入絵図がほとんどである。陸軍省指示という全国的な国政レベルの作業が記録されず、城郭存廃調査という目的が忘れられ、ただ、明治初期城郭図ということで残存している各地の城絵図に、その評価を新に与える必要がある。それらは陸軍省城絵図作成ということからは、県に残された提出図の控図であり、作成に際しての下図であり、逆にいえば、提出図の原図とも言える。又、長い年月の中で写図も作成されたと思われる。実施調査を行った京都府立総合資料館や全国の各地の城郭絵図集の中から、実像に迫りたい。尚、京都府立総合資料館においては歴史資料課古文書担当辻真澄氏に陸軍省調査の県側の対応及び絵図の閲覧等多大の御配慮をいただいた。

い) 元野村県出張畠村庁之図附氏族邸地

田原市渥美郷土資料館展示本図は明治 2 年美濃野村に転出し、廃藩となった畑村藩庁舎図である。陸軍省城絵図には城郭図以外に城

内殿舎を描画しているが、藩庁、県庁としての庁舎も含まれる、これらを含めて、陸軍省城絵図と総称した。本図も陸軍省城絵図に残されていないが、関連絵図といえる。

ろ) 園部城跡絵図

京都府立総合資料館所蔵城郭絵図である本図は陸軍省城絵図 2 2 (注 1) の提出控図である。凡例の順序が異なる以外に描画内容は全く一致する。ただ、資料館所蔵図は一面に付箋が貼られ、陸軍省提出図ではこれら的大半が亡失している。提出時の形態を知る上で本図は貴重な存在といえる。

は) 信濃国小諸城趾地絵図面

長野県町村絵地図大鑑所載本図は陸軍省城絵図 4 ・ 5 小諸城郭図の下図又は写図と考えられる。提出図は 2 5 0 x 4 2 4 c m の巨大図で、記載内容も豊富であるが骨格は同一である。

に) 岡崎城図

岡崎市所蔵で、市史研究 2 3 号絵図一覧 2 5、図版 1 5 の絵図は陸軍省城絵図 7 7 三河国岡崎県城郭図、5 5 岡崎城郭図と内郭部分は一致する。市所蔵図は図中に明治 5 年までの履歴を記入、城下町を含む総郭まで描かれ 1 5 6 , 2 x 1 5 0 , 3 c m、提出図は約 8 0

x 9 0 c mで城郭部分のみ、ただ、土塀の残存状況が市所蔵図の方がわずかに多く、提出図はこれを原図とし、修正の上、作成されたと考えられる。

ほ) 臥牛城実測図 2 0 0 分 1 (仙台領内水沢要害)

富原文庫所蔵本図も陸軍省城絵図に残存していないが、描画内容は共通する。ただ、紙質や絵具から、大正、昭和の写図と考えられる。

1 5 8 x 2 1 7 c m の巨大詳細図である。

へ) 亀山城絵図 9 (本丸図)、亀山藩旧庁邸地所之図 5 ・ 7 ・ 1

3、亀山城全図 1、亀山城絵図 1 8 (丹波国桑田郡亀岡城郭分間絵図)

京都府立総合資料館所蔵 4 種 6 図 (番号は資料館所蔵城郭図番号) は陸軍省城絵図の控図、下図である。

亀山城絵図 9 本丸図は城内を知る唯一の細密実測図で亀山城研究の基本図である。亀岡市文化資料館の第 2 6 回特別展図録では「京都府が旧城郭を明治政府から払い下げられた際、管理のために土地・建物の利用状況を把握するために提出させた図面を集めた物」と推定されている。正確には資料館に絵図伝来の経緯は伝わっていない。ただ、この絵図に対する評価は陸軍省城絵図に対するこれまでの標

準的評価と理解される。今回、陸軍省城絵図が発見されたことで、これらが陸軍省が城郭の存廃決定のため、京都府に下命し、旧亀岡県が作成したものと判明した。絵図は提出図と京都府の控図に大きな相違はない。提出に際し、内堀の色を紫から水色に、奥御殿を白から黄色、本丸内を黄土色から緑色に彩色変更したほか、京都府図には一面に付箋が残っている。伝来図は消失したと考えられる。

亀山藩旧庁邸地所之図 5・7・13 の3図は陸軍省城絵図では裏面に旧亀岡県庁絵図京都府と在る。京都府5とは白黒であること大きさはほぼ同じであるが。提出図は部屋ごとに広さが記入されている。京都府7も地面に黄土色の彩色があり、こちらは各部屋の広さを提出図と同様記入している。京都府図13もほぼ同様であるが内容は一番まとまっている。

亀岡城全図1は陸軍省城絵図の下絵である。提出図は土塀をあだやかな白に彩色し、通路の黄土色も濃く、堀も明るい水色に仕上げられ全体的に華やかになった。描画内容に違いは見られないため、提出用に精図として仕上げたと考えられる。

亀山城絵図18は丹波国桑田群亀岡城郭分間絵図と紹介されている詳細な城内全域測量図である。本図は当初、陸軍省城絵図2の下図

と考えた。京都府図は106x184cmであるが、提出図は217x350cmと巨大である。しかし、仔細に検討した結果、京都府図には京都府亀岡出張所が記入、陸軍省城絵図には測量記録がなく、全く別図と判明した。京都図は測量実測、陸軍省城絵図は建築物の現状記録が主体であった。しかし、本図は先の本丸図と本丸部分は同一であり、同時期に作成された一対の城内全域測量図、つまり、陸軍省城絵図には残存しないが、陸軍省城絵図の控図と考えられる。富原文庫には以上4点以外に、主図合結記系5点を含め、8点ほどの簡単な亀山城絵図がある。

注1) 各県所在絵図と比較検証した陸軍省城絵図番号は富原文庫所蔵陸軍省城絵図目録番号です。

3) 陸軍省絵図から見た変貌した城地の検証

極めて詳細な丹波亀山城本丸図と関連絵図から、城郭の現状を再現できるのではないかと40年ぶりに現地を視察した。本丸は宗教法人大本の敷地のため、広報渉外部長猪子恒氏にお世話になり、現地案内と資料の提供をいただいた。昭和10年地図、昭和37年地図、近年の現状図、昭和37年亀岡天恩郷全景図、現在の大本本部神苑案内図をいただき、城内全域をご案内いただいた。明治4年廃藩とな

り、6年廃城とされた城地は建築の売却、石垣の鉄道、寺院等再利用により、明治末期には見る影もなく、廃墟と化していた。大正8年大本の出口王仁三郎が本丸、二ノ丸を入手、整備したが、2度にわたる宗教弾圧により、石垣はダイナマイトで吹き飛ばされ、戦後、聖地として整備された、類例のない履歴を持つ城跡である。

北の堀は南郷池として残されているが、東の保津門の南側は埋め立てられ、旧観をとどめない。道路の東低地が堀跡か。南は本来2重の内堀であるが、東南方向は埋め立てられ駐車場、道場となっている。道場西の洗心池は後世のものですが、内堀跡の一部に位置する。万祥殿東の石垣に囲まれた通路は古図の位置から見るに、東が二ノ丸、西が本丸であり、通路はほぼ本丸・二ノ丸境の水堀跡と考えられ、通路と手前の敷地一体は埋め立てられた内堀で、万祥池は本丸入り口の東南内堀と考えられ、本丸入り口土橋は池の西側に位置し昭和10年までは残されていた。土橋西の水堀は広大な空堀状低地として残されている。空堀西側は天声社という印刷工場跡地として埋められたため、残存状況は不明である。内堀内北側本丸石垣は、戦後、積み替えられており、旧態をとどめない、又、天下普請のため、城内一帯に助役大名の石垣刻印が散見されるが、これは破壊された石材

を再利用し、新石垣を構築したためで、当時の石垣ではない。本丸北側一体は元焰硝蔵のあった中ノ島まで植物園となっているが、本丸側の断崖は高い高低差があり、亀岡城のかつての堅塁さを髣髴とさせる。本丸石垣はダイナマイトで吹き飛ばされた残骸を再利用した戦後のものであり、断崖下には吹き飛ばされた建物の残骸が草むらの中に散乱している。本丸に戻り、万祥殿でお払いを受け、西南側奥、一の門跡を抜けると本丸上の段への通路となり、聖域として立ち入ることが出来ない。上の段東南の月見櫓下石垣は見事なもので、一見、城郭石垣と見間違い、天守台石垣と紹介された城郭文献も少なくない。位置は概ね近いと思われ、下3段は旧石垣と伝承されているが、全体や右側本丸への登壇部分を含めて後世の造作であり、城郭遺構は残されていない。本丸上段は弾圧で破壊され、天守台等の遺構は残存しない。本丸図により、位置が明確となったため、発掘調査で根石がでてくるかと思われる。本丸上段南石垣下通路を直進すると月の輪台手前に門があり、内側にダイナマイトを仕掛けられ、割れた石が残存している。本丸西の堀は昭和10年まで残されていた。今は埋め立てられているが、堀の外側が溝となり、都市基本図においても、現地においても、堀城壁位置を読み取ることが

できる。大本敷地の西側に不明門の遺構は読み取れないが、本丸堀の西南堀が地形として観察される。少しはなれて、亀岡小学校西側と東の古世親水公園に外堀の跡を伺うことができる。城郭の破壊としては城割による全国の遺構を思い浮かべるが、亀岡城の場合は遺構全体をダイナマイトで飛ばしたため地形の基本を除き、工作物は原型をとどめない。今回陸軍省城絵図から、現地を見ようとしたが、私有地であり、自由に縄張図をかける状況ではなく、40年前の訪問記憶でも、本丸の城郭遺構は消滅しており、逆にいただいた地形図や絵図が旧状を知る手がかりという状況でした。現地散策の機会を与えていただき、城郭跡地をきれいに維持されている宗教法人大本に感謝し、平成23年6月の現状記録とします。

4) 各府県における絵図作成への対応記録

京都府は明治4年7月廃藩置県時点で、京都府以外に、淀県、亀岡県、園部県、山家県、綾部県、福知山県、舞鶴県、峰山県、宮津県、久美浜県と11県在り、明治4年11月府県合併により、京都府と豊岡県、さらに、明治9年8月現在の京都府となりました。

明治4年10月9日兵部省大阪出張所は京都府に対し、「今般当地鎮台被差置候に付而者、管内の諸国城郭陣屋等取調候間、山城国内

之義は府より諸県江御通達相成て、城郭陣屋共図面明細書——」と旧県行政の調査取りまとめを指示している。12日京都府は兵部省大坂出張所に「今般其地に鎮台被差置候付而者、山城部内の城郭陣屋共、当府より諸県江通達及び、明細書図面等取束ね早々御廻可申旨御掛合の趣、致承知候也」とわずか3日後に受諾、13日京都府は淀県に「別紙之通大坂兵部省より申越候間、貴県城郭図面明細書御取揃、早々当府江御差出可有之度——」と指示し、当日中に淀県から、すでに東京兵部省へ差出したが、京都府へも差出すべきか、問い合わせがきている。京都府は「山城部内城郭陣屋向明細書、当府にて、取纏め差出す旨、大坂兵部省から掛合が来ている為、差出す旨」のやり取りをしている。京都府には、閲覧した範囲でも、陸軍省による城郭存廃調査の記録古文書14点が残されており、調査を実施した側の生の資料となっている。（注1）今回は時間の関係で県側資料の存在を突き止めたことで、稿了としますが、今後、各県文書館を引き続き調査し、全容を解明したい。最後に、ご協力いただき、又、貴重な資料を保存、伝承された京都府立総合資料館歴史資料課に敬意を表し、感謝したい。

注1 京都府立総合資料館歴史資料課1998年古文書講習会資

料「明治時代の旧城郭」

第3部

しろはく古地図と城の博物館富原文庫 陸軍省城絵図所蔵目録

平成23年3月19—21日調査

凡例

地域 国名 検索番号

城名 図中に記入なきは未記

絵図内容 城郭図、城下町図、古城図、砲台図、御殿図、その他

寸法 1辺50cm以下小 50—100cm中、
100—200cm大 200cm以上巨大 縦横不同

精度 細密、精、粗

特記事項 記入内容題名、記載地域、作者、印、紙厚、
県庁県知事住居記載、描画方法平面図か建築のみ鳥瞰図、坪数、寸法、測量、縮尺有無 建築物付番の有無、

九州	筑後	1 久留米城(未記)	346 x 256 cm	城郭図	巨大	細密	本丸二の丸三の丸、測量値坪数記入、植生、御殿等 現存建築平面図、薄葉紙、旧知事元屋敷、欠損補修
近畿	丹波	2 亀岡城(未記)	217 x 350 cm	城郭図	巨大	粗	本丸一土族屋敷、坪数記入、御殿等平面図、薄葉紙、 建築番号記入
近畿	丹波	3 亀岡城	94 x 127 cm	本丸城郭図	大	細密	丹波国亀岡県 五重天守御殿多門平面図、薄葉紙
甲信越	信濃	4 小諸城	207 x 250 cm	本丸城郭図、	巨大	精	二の丸図と一体、本丸御殿平面図、一部欠損 信濃國小諸城址地絵図面の原図
甲信越	信濃	5 小諸城(未記)	81 x 217 cm	二の丸城郭図	巨大	精	本丸図と一体 250 x 424 cm
不明		6 不明	124, 5 x 147 cm	本丸二の丸城郭図	大	細密	連立式天守、天守は角櫓のみ、二の丸御殿平面図

本丸二の丸全周囲多門櫓、二の丸南北の城門南枳形

東海	三河	7	西尾城(未記)	1 1 3 x 8 2 c m	城郭図	大	粗	坪数、櫓鳥瞰
北陸	越前	8	鯖江陣屋(未記)	9 8 x 1 4 0 c m	陣屋図	大	粗	坪数、御殿平面、本丸二の丸
東北	陸前	9	牡鹿半島横断測量図	4 1 x 2 4 7 c m	要所図	巨大	粗	女川湾一万石浦間、東鷲津浜一西浦宿浜陸路測量図
近畿	伊勢	1 0	四日市陣屋(未記)	6 2, 5 x 7 8 c m	陣屋図	中	粗	県庁絵図 御殿平面図記入
近畿	伊勢	1 1	長島城(未記)	5 5 x 7 8 c m	城郭図	中	精	元県庁、建築立面 薄葉紙
近畿	丹波	1 2	福知山城(未記)	3 4 x 4 8 x 3 枚	建築指図	小	精	明治5年4月能勢市次郎作 本丸天守小天守各層建築指図3枚
東北	陸前	1 3	岩出山館	7 2 x 6 9 c m	陣屋図	中	粗	仙台藩 中世城郭と陣屋
近畿	大和	1 4	郡山城(未記)	1 1 3 x 1 7 0 c m	城郭・城下町図	大	細密	旧県庁、知事宅記入、細密記入有り調査必要端欠損
東北	磐城	1 5	三春城	3 7 x 4 8 c m	城跡実測図	小	精	明治5年正月宮繕方作成、 測量(三春県絵図方)佐久間讃、拝借者名詳細記入 ローマ字ミハルモトシロヤマセンスと記入 (富原文庫所蔵三春県絵図方測量図の一環)
九州	豊前	1 6	中津城(未記)	1 2 6 x 1 2 7 c m	本丸二の丸城郭図	大	細密	本丸御殿等建築平面図、取り払い建築明記、 薄葉紙
近畿	丹波	1 7	篠山城(未記)	9 6 x 1 1 7 c m	城下町図	大	粗	旧知事屋敷、役所記入
関東	常陸	1 8	土浦城	5 2 x 7 3 c m	御殿図	中	精	本丸御殿平面図 薄葉紙
北陸	若狭	1 9	小浜城(未記)	9 5 x 1 3 3 c m	城郭図	大	粗	
東海	遠江	2 0	浜松城	1 2 4 x 1 2 6 c m	城郭図	大	精	裏65
東海	遠江	2 1	浜松城	3 4 x 5 4, 5 c m	城郭図	中	精	袋浜松元城内絵図
近畿	丹波	2 2	園部城(未記)	9 4 x 1 3 7 c m	城郭図	大	粗	
東北	羽前	2 3	米沢城(未記)	1 7 0 x 2 7 2 c m	城郭図	巨大	精	

			旧知事住居跡壬申(明治5年)5月23日焼失、		
東北	羽前	24	米沢城(未記)	150 x 156 cm	本丸城郭図 大 細密 寛永元年造営本丸御殿等建築平面図
東海	遠江	25	掛川城	28 x 38 cm	城郭図 小 粗 坪数 袋元懸川城内絵図
東海	遠江	26	掛川城(未記)	111 x 77, 5 cm	城郭図 大 精 浜松県出張所、産業所、調練場、残存建築記番
近畿	志摩	27	鳥羽城	107 x 132 cm	城郭図 大 精 測量数字坪数 県庁記入 裏志摩国元鳥羽県72
不明		28	不明	51 x 133 cm	砲台図 大 精 砲座10門3分1円形台場 海際寸法記入
不明		29	不明	77 x 167 cm	御殿図 大 粗 元禄年間松平伊賀守造営 県庁略図
不明		30	不明	97 x 108 cm	陣屋図 大 精 1080坪錬兵所、建築平面図屋根葺記入
不明		31	不明	97 x 78 cm	陣屋図 中 精 裏元県庁 五番(赤字)
不明		32	不明	53 x 51 cm	御殿図 中 精 屋根葺付平面図 城内表書院表広間奥座敷等薄葉紙
東北	磐城	33	駒ヶ峰館	70, 6 x 70, 3 cm	古城図 中 粗 磐城国宇多郡駒ヶ峰村旧館
近畿	志摩	34	恵利原村陣屋	109, 7 x 78, 3 cm	陣屋図 大 粗 鳥羽城より3里、坪数、瓦葺、裏99
甲信越	信濃	35	飯田城	45, 1 x 76, 7 cm	城郭図 中 精 外郭開墾朱引き 裏53
東北	磐城	36	守山元陣屋	46, 3 x 35, 3 cm	陣屋図 小 精 元松川県管轄磐城国田村郡守山元陣屋図 庁 (明治3年廃藩、常陸松川藩庁移設)
東北	磐城	37	田村郡三十一ヶ村全図	38, 8 x 28 cm	其の他 小 粗 元松川県管轄 田村郡実測図
近畿	丹波	38	綾部陣屋	149, 5 x 192 cm	陣屋図 大 細密 旧県庁、旧知事住居、御殿等建築平面図 坪数 裏丹波国何鹿郡綾部陣営之図20
東海	三河	39	刈谷城	75, 5 x 54, 8 cm	城郭図 中 粗 裏刈谷城 図籍掛改済印 40
東海	美濃	40	高須城	85 x 61, 7 cm	城郭図 中 精

			建築に番号記入 (明治3年廃城尾張に併合)裏21
東海	駿河	41	沼津城 91 x 81, 3cm城郭図 中 精 駿河国沼津城有形1分1間積縮図 裏82 練兵所 修行兵屯所 (明治4年廃藩)
東北	羽後	42	松峰城 79, 5 x 93, 5cm城郭図 中 精 松嶺城絵図73 坪数 元県庁 御殿寛文二年創立天明七年脩造
東北	羽前	43	鶴岡城 135 x 125cm城郭図 大 精 鶴岡城絵図、御殿等建築平面図 坪数寸法記入
九州	豊後	44	岡城 71 x 405cm建築図 巨大 精 岡城営繕方作成建築絵図 寛政年中造営西丸絵図 器械方絵図 蔵迫手門 本丸絵図寛政年中造営 下原口門内絵図
北陸	越前	45	丸岡城 135, 8 x 123, 9cm城郭図 大 精 越前国丸岡城郭図足羽県 裏78 御殿平面図
近畿	伊勢	46	田丸城 79, 4 x 83, 3cm古城図 中 粗 勢州田丸城 火薬蔵 裏6 (慶長5年1600-元和2年1616年廃城)
関東	常陸	47	下館城 133 x 131, 5cm城郭城下町図 大 細密 東京鎮台管常陸国下館城図 裏55 二の丸に元県庁 営繕小屋 東京住士卒帰藩邸宅地不足本丸出丸牛年開拓
東北	陸奥	48	白石城 77, 8 x 69cm本丸城郭図 中 精 白石城 3層大櫓 御殿細密平面図 (仙台藩領)
近畿	丹後	49	舞鶴砲台 73 x 47, 2cm砲台図 中 精 壬申(明治5年)5月豊岡県支庁舞鶴局印舞鶴出張局 砲車野戦車
東海	美濃	50	加納城 62 x 63, 4cm城郭図 中 精 裏13 元加納県城跡略図 藩士帰農の地に割渡 旧庁、知事住居跡
東海	尾張	51	犬山城 91, 7 x 85, 7cm城郭図 中 細密 美濃国各務郡鵜沼村 残存建築番号 天守櫓鳥瞰 (慶応4年犬山藩)
東海	遠江	52	横須賀城 27, 1 x 38, 5cm城郭図 小 粗 横須賀城元内郭絵図 坪数 (明治元年廃藩) 薄葉紙
東北	羽後	53	本庄城 53, 2 x 38, 7cm城郭図 中 精

旧本庄県城郭図 寸法記入 薄葉紙

- 東北 磐城 54 小堤村館 86, 3 x 80, 4 cm 古城図 中 精
磐城国互理郡小堤村旧館略図 測量図
- 東海 三河 55 岡崎城 91 x 78, 5 cm 城郭図 中 細密
三河国岡崎県 建築鳥瞰 県庁 裏69
- 関東 常陸 56 笠間文武館 164 x 123, 7 cm その他 大 精
常陸国茨城郡笠間文武館絵図 旧笠間県
安政5年新築
- 北陸 越前 57 大野城 122, 2 x 93, 5 cm 城郭図 大 細密
大野城郭図1分1間測量図 県庁 練兵場 坪数
裏越前国大野城郭図 足羽県 23
付図 大野城郭内貫属屋敷図 31 x 41 cm 城郭図 小 精
大手口調馬場附近
- 東北 羽前 58 米沢城 157 x 133 cm 城郭図 大 精
元米沢城郭図 開拓掛 県庁
- 東北 羽前 59 亀崎城 160 x 147 cm 古城図 大 精
亀崎城絵図 坪数 建築平面図 2 (庄内藩領?)
- 東海 駿河 60 沼津城 80 x 96 cm 御殿図 中 精
元沼津城二ノ丸住居絵図 10間6寸 平面図
- 甲信越 信濃 61 高島城 61, 6 x 167, 7 cm 城郭図 大 細密
高島城郭之図但分間 95 県庁 建築鳥瞰
文武学校 87 とほぼ同一図
- 甲信越 信濃 62 松代城 90, 9 x 96, 5 城郭図 中 細密
松代海津城郭図面 方位 建築櫓蔵等鳥瞰 12
- 甲信越 信濃 63 高遠城 82, 3 x 77, 3 cm 城郭図 中 精
元歴年中築立高遠城郭図 建築番号 文学校
裏高遠城郭絵図 84
- 北陸 越前 64 勝山城 90, 7 x 93, 3 cm 城郭図 中 精
越前国大野郡勝山城郭並建物之図1分1間
裏越前国勝山城郭図足羽県 県庁 17
- 甲信越 信濃 65 飯山城 82, 3 x 77, 3 cm 城郭図 中 精
信濃国飯山城分見絵図1分1間 二ノ丸に庁
方位
- 九州 豊前 66 中津城 81, 3 x 120, 8 cm 城郭図 大 精
豊前國中津城郭之図面 薄葉紙 47
- 近畿 伊賀 67 上野城 67, 7 x 70, 5 cm 城郭図 中 精

八十九番(赤字)伊賀上野城郭図

本丸細密 官舎 31 (津藩領)

東北 陸前 68 石母田館 71, 3 x 66, 4 cm 古城図 中 粗
第21区栗原郡本郷高清水村石母田備後旧館図
村長土田隼見署名黒印 高清水館(朱字)

付図 3階建奥蔵図 32, 3 x 27, 9 cm 建築図、小、粗
広間絵図 32, 5 x 27, 9 cm 建築図 小 粗

近畿 丹波 69 園部城 133, 2 x 154 cm 城郭図 大 精
丹波国船井郡園部城之図 外郭周囲内郭周囲記
(明治天皇行在所として改修)

九州 薩摩 70 砲術館 63 x 53, 8 cm 其他 中 粗
砲術館 大泉(赤字) 建築平面図

付図 菅原矢場地之図 28 x 36 cm 其他 小 粗
(鹿児島砲術館か)

関東 上総 71 佐貫城 54 x 40, 5 cm 古城図 小 粗
上総国天羽郡佐貫城跡粗絵図 50

東北 羽後 72 横手城 44, 5 x 33, 8 cm 古城図 小 粗
横手城地略図 訓練場

東北 羽後 73 大館城 52 x 77, 5 cm 城郭図 中 粗
秋田郡大館城郭之図 戊辰ノ役兵火に付建物不残焼失
25

東北 陸前 74 宮沢館 54, 5 x 50, 5 cm 古城図 中 粗
陸前国栗原郡本郷宮沢村長沼弥傳治旧館図
壬申(明治5年)5月 村長平地茂左エ門 25

関東 上総 75 久留里城 143 x 166 cm 城郭図 大 精
旧久留里城山続大凡反別絵図
旧県庁、旧知事住居

東海 美濃 76 今尾城 61 x 85, 8 cm 城郭図 中 精
県庁、学校 41 元今尾県城郭絵図面89図と近似

東海 三河 77 岡崎城 89, 3 x 79, 3 cm 城郭図 中 細密
三河国岡崎県城郭図 県庁 練兵場 天守等建築鳥瞰
凡例一部欠損

東海 三河 78 挙母城 114, 7 x 111, 7 cm 城郭図 大 粗
裏旧挙母県城郭 本丸元挙母県城郭

近畿 紀伊 79 田邊城(未記) 80, 7 x 77, 8 cm 城郭図 中 精
元県庁、田邊川、海岸波打際、学校、刑務局 坪数

(田邊川とあるのみだが、田邊川は会津川であり、地形、
海岸、川、堀等から田邊城と確定)

- 近畿 紀伊 80 田邊城(未記) 39 x 54 cm 本丸城郭図 中 粗
坪数、建築平面図、寸法 79 の本丸と一致
- 近畿 伊勢 81 桑名城(未記) 92, 7 x 64, 9 cm 城郭図 中 精
建築番号、櫓鳥瞰 裏桑名(赤字)
- 東海 美濃 82 郡上城 63, 6 x 61, 6 cm 城郭図 中 精
元郡上県城跡略図 樹木一昨庚午年撤去 48
- 近畿 丹波 83 亀岡城 133 x 148, 4 cm 御殿図 大 精
旧亀岡県庁絵図京都府 建築平面図 坪数
- 東海 美濃 84 加納城 55 x 40, 3 cm 城郭図 中 粗
濃州加納城郭之図
- 近畿 摂津 85 高槻城 92, 8 x 93 cm 城郭図 中 細密
摂津国高槻城 坪数 元県庁 天守等建築鳥瞰 20
袋に陸軍省築造局印有 摂津国高槻城図 高槻県、
- 甲信越 信濃 86 松代城 132 x 148 cm 城郭図 大 精
松代海津城測量之図2分1間 測量図貫属屋敷12
- 甲信越 信濃 87 高島城 75, 6 x 157 cm 城郭図 大 精
高島城郭之図但分間 61 とほぼ同一図 35
- 東北 陸中 88 中嶋館 53, 3 x 68 cm 古城図 中 粗
陸中国江刺郡吉内村元仙藩中嶋兵衛之介居住地
建築番号
- 東海 美濃 89 今尾城 64, 3 x 61, 9 cm 城郭図 中 精
元今尾県内外郭之図 県庁 学校 70
76 図と近似
- 九州 豊後 90 佐伯城 81 x 237 cm 城郭図 巨大 細密
豊後国佐伯城図 薄葉紙 寸法詳細記入
- 関東 上総 91 松尾城 76, 5 x 134, 3 cm 城郭図 大 精
松尾県庁1分1間縮図 県庁 練兵所 遠町打場
兵隊屯所 営繕方 学校 目安箱 高札 建築鳥瞰
裏上総国武射郡芝山県改松尾県庁絵図面
(明治元年立藩、掛川城収公により)
- 東北 磐城 92 棚倉城 72 x 51 cm 城郭図 中 精
旧知事住居 棚倉城(赤字) 建築番号
- 東北 磐城 93 棚倉城(未記) 38, 9 x 28, 3 cm 城郭図 小 粗
92 図の縮図

近畿	伊勢	94	田丸城	88, 3 x 77, 7 cm	古城図	中	細密	伊勢国度会郡田丸城 石垣高さ長さ記入 建築番号築年月記入 薄葉紙
東北	磐城	95	平城(未記)	79, 4 x 82, 2 cm	城郭図	中	粗	開墾地記入 門大破
東海	美濃	96	郡上城	44, 3 x 48, 5 cm	城郭図	小	精	元郡上県城郭絵図 元練兵場、開墾地記入 68
近畿	丹波	97	園部城	69, 3 x 84, 8 cm	城郭図	中	精	丹波国船井郡園部城図
近畿	丹後	98	宮津城	107 x 90, 8 cm	城郭図	大	精	宮津旧城郭絵図面 建築番号坪数 旧練兵場 鉄砲打場2箇所 武器蔵 薄葉紙
近畿	丹波	99	柏原城	120 x 208 cm	御殿図	巨大	精	元柏原県庁総図 陣屋郭内坪数 元県庁 建築番号、
北陸	越前	100	勝山城	93 x 91, 3 cm	城郭図	大	精	越前国大野郡勝山城郭絵図1分1間 二ノ丸県庁、堀作付 明治2年銃練場改作記入
近畿	淡路	101	松帆台場	52, 8 x 36, 2 cm	砲台図	中	粗	文久3年出来岩屋浦松尾砲台 坪数 寸法
近畿	但馬	102	出石城	94, 8 x 98, 7 cm	城郭図	中	粗	出石城跡略図 県庁、武学校、文学校 練場
近畿	丹後	103	田邊城	97 x 115, 3 cm	城郭図	大	精	豊岡県支庁舞鶴局印 舞鶴出張所作成 壬申(明治5年)5月 元県庁 操練所
東海	美濃	104	岩村城	86 x 77, 5 cm	城郭図	中	細密	岩村絵図 櫓等建築すべて鳥瞰 方位 9 付図 岩村城外郭 30 x 42 cm 城郭図 小 粗 元岩村県
近畿	伊勢	105	長島城	125 x 106, 8 cm	城郭図	大	細密	伊勢国長島城郭之図 本丸に庁 元知事住居 44
近畿	近江	106	水口城	63, 9 x 45, 3 cm	城郭図	中	精	水口(赤字) 69 近江国水口城 建築鳥瞰 寸法
九州	豊後	107	大分城	102, 4 x 79 cm	城郭図	大	精	府内城之図 旧知事住居 建築番号 牢屋 旧役所 48
北陸	越前	108	勝山城	80, 5 x 68 cm	城郭図	中	精	越前国大野郡勝山城郭之図 堀作付

三の丸銃隊場切り開き 17

- 九州 筑後 109 高良山古戦場 94, 6 x 149, 4 cm 古戦場図 大 粗
袋御井郡高良山古戦場地図 76
文中3年菊池氏高良山籠城 足利義満20万騎寄せ手
- 東北 羽後 110 本荘城 56, 7 x 37, 2 cm 城郭図 中 精
羽後国由利郡元本荘藩旧城尾崎城図面 寸法 11
- 東北 陸中 111 一関城 48, 7 x 99, 1 cm 城下町図 中 精
一ノ関城郭内外市中総図(赤字)仮県庁 図籍掛改済印
- 東北 陸中 112 人首館 56, 3 x 73, 7 cm 古城図 中 粗
江刺郡人首村旧館絵図面 建築番号
- 東海 三河 113 岡崎城 80 x 75 cm 城郭図 中 精
元岡崎県 県庁 建築鳥瞰 薄葉紙
- 東海 三河 114 田原城 72, 5 x 57, 7 cm 城郭図 中 精
元田原県 建築鳥瞰
- 近畿 丹波 115 亀岡城 89, 6 x 54, 6 cm 城郭図 中 精
丹波国亀岡県 五重天守等鳥瞰 文字無
- 近畿 伊勢 116 神戸城 148, 5 x 109, 2 cm 城郭図 大 細密
神戸城内図面 方位 測量 元県庁 兵学寮
- 東海 美濃 117 苗木城 62 x 63, 8 cm 城郭図 中 粗
元苗木県城跡略図 方位
- 東北 磐城 118 湯長谷陣屋 71, 3 x 46, 8 cm 陣屋図 中 粗
磐城国磐前郡下湯長谷村同郡白鳥村散野入合
元湯長谷陣屋之図 49
- 東北 羽後 119 亀田城 77, 3 x 54, 5 cm 城郭図 中 粗
旧亀田県城郭之図